

けではなく、心の傷だと思います。身体の傷は病院へ行けば治すことができます。しかし、心の傷はどうでしょうか？どのように治療できるのでしょうか？おじいさんが行ったことは本当に正しいし、大半の日本人は良い人で、おじいさんの話を聞いて同じ気持ちになったと思います。そのため、私達は戦争反対で永遠の平和を求めたいです。このおじいさんの話をぜひ他人に伝えて、おじいさんの平和、私達の平和、心と心に友情の種を蒔きたいです。

その午後、私達は Armand 教授の提案によって、いくつかのグループに分かれました。人の体で彫刻を作ります。私はおじいさんのストーリーに基づいて作りました。私は全部で2つの作品を創作して、第一の作品は名前を“Never Die”と言って、赤ちゃんを抱く女性、後ろに刀で彼女を刺す日本兵がいます。しかし、彼女はどんなことがあっても赤ちゃんを守ります。彼女の腕の中で静かに眠る赤ちゃんを抱いて、ほほえんで未来に向かっています。私と同じ小グループになった村本先生、その他の人の作品もすべて感動するものでした。そしてどれも参考になるものばかりでした。そして、私は大きな発見をしました。人によってそれぞれ感じる違うので、出来上がった彫刻もどれも違うものですが、どれも共感できるものばかりでした。

この4日間、私は自分の感情に耐えてきました。体が疲れきっていることだけでなく、早寝早起きしてワークショップに参加して心も非常に疲れきっています。それでも私は今回のワークショップに参加できて、本当に良かったと思っています。ワークショップは大きな重い石を静かな心に投げ込んだように波が大きかったです。今回の活動は本当に私を成長させてくれました。

Remembering Nanjing 2009: Reflection

陈新兴（南京师范大学）

大家驱车去参观了南京大屠杀纪念馆。在还没入馆前，日本的来宾看到纪念馆门前的雕塑所反映出来的残酷的历史情境，都开始忍不住潸然泪下。在整整三个小时的参观过程中，大家一直都保持着肃静，怀着悲愤的、复杂的心情结束了参观。参观结束后，笠井女士将大家分为4个小组，并发给蜡笔和纸，希望大家将自己的感受以绘画的形式表现在纸面上。虽然大家都没有精湛的画工，但大家

都怀抱着一颗真诚的心，急于表达自己的各种情绪。

HWH 工作坊邀请了南京大屠杀幸存者常志强老人来给大家做演讲。对于常老而言，每次在众人面前回忆自己的故事，就如同再次用利刀割裂自己的伤口般痛苦。但是常老却从未放弃过任何能够向他人分享自身经历的机会。这次也同样如此，常老为与会的 20 余人讲述了自己的故事。在听完故事后，所有的与会人员都是泪流满面，内心深处被深深触动。大家都用一句最直接最简短的话对常老表示了感谢。我已经是第四次亲身听到常老说这个故事了。对于常老经历的梗概，我都早已熟记于心。但是每次听常老的故事，都如同第一次听一样，无比感动，泪湿衣襟。战争真的太残酷了。它所造成的伤害不仅仅是身体上的，更是心灵上的。身体上的创伤可以通过医疗手段治愈，但是内心受到的伤害呢？我们要怎么去面对，怎么去治疗呢？常老说的很对，大多数日本人的内心都是善良的，对于常老的故事也能感同身受的。因此，我们要拒绝战争，要寻求永远的和平。要将常老的故事转述给其他人，将常老交给我们的和平、友谊的种子在心与心之间传递。

下午，我们根据 Armand 教授的建议，分成几个小组。以人体雕塑的方式，来反映自己在听过常老的故事之后的内心感受。我一共创作了两个作品，第一个作品名叫“Never Die”，表现的是一个怀抱婴儿的妇女，身后有日本兵用刀刺她，用枪杀他，用绳子勒她，甚至想要强暴她，但是，她却不会受到任何的伤害，身体上不会被武器伤害，心灵上也不会被战争污染。无论如何，她都不会死，永生的她带着她怀里安睡的宝宝，微笑着走向未来。这个作品所表达的是我的希望，希望遭受战争侵害的中国人，永远都不会受到任何伤害，战争的无情不会影响到任何人。尽管只是我的臆想，但我只是希望不要再有任何的伤害了。和我一组的村本老师、靳井同学等的创作，都让我很是感动。我也作为一个表现元素参与了他们的作品。我才发现，作为雕塑家和被雕塑者所感受到的不同情绪。作为被雕塑者，我能深入雕塑者的内心，体会她的感受，激起我心底的共鸣。

但是，我觉得能够有机会参加这次工作坊，能够有这种体验，是种幸福。这次工作坊如同一颗沉重的石子，在我原本平静的心灵上重重的投下，激起了片片波澜。但是这些波澜，这些慢慢淡去的余波，却让我思考，让我成长，让我成熟。我所经历的这些情绪，我所思考的所有东西，在会议结束后，我所体味到的所有东西，都让我成长。

我很庆幸，在社会工作发展如此贫乏的中国，我能有机会真正的体验了一次实际意义上的团体小组工作；我很庆幸，在这一年的秋天能够认识这么多的日本朋友，中国朋友；我很庆幸，自己的思绪翻滚又归于平静；我很庆幸，这次工作坊让我成长。

4

感想

商倩倩（南京師範大学心理学）

南京大虐殺のワークショップに参加して、2007年の会議に参加したことのある方たちの話に耳を傾けていました。まず村本邦子さんの発言がありました。彼女は臨床心理士で、家庭内暴力や性暴力と虐待などをさかのぼると戦争が関係していると考えます。だから彼女は、現代の暴力はまず戦争での暴力の記憶のトラウマを癒さなければならないと思っています。その考えは、私にとってはとても新鮮でした。その他に私を大変感動させたのは、2年前の会議に参加した2名の日本人の発言です。彼女たちは心の奥底の気持ちを話してくれました。彼女たちは、小さいときから南京大虐殺の話聞いたことがなく、彼女らの家族もみんなこの話題から避けていたようです。彼女らが中国へ来て、こんなに証拠を見たあとに、自分の大好きな祖父が殺害者であるかもしれないことは、どうしても信じられないと思います。相当大きな恥じらいが彼女らを長期間に渡り、不安にさせたと思います。

私はこれまで日本人の南京大虐殺に対する意見を聞いたことがなかったのですが、今日彼女たちの本当の気持ちを聞くことができて感動しました。私はこれが日中友好を強くする意義があると思いました。彼らはどうして逃げるのでしょうか？

幸存者の方の証言を聞きました。おじいさんは朝2時間バスに揺られてやってこられました。彼は今年83歳ですが、とても元気そうに見えます。おじいさんは気持ちをたっぷりと込めて、つらかった話をして下さりました。9歳の